

緑の相談所だより

-第33号-

(4, 5月号 1995. 4. 1 発行 編集: 旭川市緑の相談所)

日に日に日差しも強くなり、春が駆け足でやってまいりました。

冬眠していた緑の相談所展示室横のチューリップも、ぐんぐん芽をのぼしています。

神楽岡公園の樹木もまもなく新緑につつまれてきますから、園内の散策も一層楽しくなります。ひかえめに咲く愛らしい野草、木から木へ飛びかう野鳥のさえずりが皆さんを歓迎してくれます。

展示室内では四季折々の花、熱帯植物もお楽しみいただけます。

また植栽、施肥方法、病虫害防除法など相談員がアドバイスしておりますので、散策かたがたお気軽にご利用ください。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

■庭木類の正しい配置と移植方法

剪定の仕方

内容 庭木類の生育場所。
ツツジ類の移植と剪定。

日時 4月9日(日)午後1～3時

講師 旭川市緑の相談所相談員
小島博昭

■ツツジ類花後の肥料 松類の剪定

内容 花が終わってからの肥料の必要性と肥料の種類。
切りつめと枝抜き剪定の仕方。

日時 5月14日(日)午後1～3時

講師 旭川市緑の相談所相談員
小島博昭

■春の園芸作業

内容 鉢物の植え替えと庭への植え付け

日時 4月23日(日)午後1～3時

講師 旭川市緑の相談所相談員
本郷仁

※※※※※※※※※※※※※※※※※※

■5月28日の講座の内容、講師については未定

4月5月

講習会ご案内

参加は無料

いずれも定員は60名

お申し込み・お問い合わせは

☎ 65-5553

定員になりしだい締め切らせていただきます。

問

スモモやアラムの実が次のようになりほとんど収穫できません。どうしたらいいでしょうか。

1. 実が熟さないうちにかびて腐ってしまいます。
2. 実の中にウジムシが入って実をたべています。

答

1. かびて腐るのは灰屋病です。枝に残っている干からびた実、地面に落ちている実から菌がでますから、まず集めて焼き捨ててください。4月下旬か5月上旬、芽が動きだす直前に石灰硫黄合剤の3倍液を枝、幹にたっぷりかけてください。木の下の地面にもかけておきましょう。芽が動くとき実害がでますからおくれないようにします。石灰硫黄合剤はアルカリ性の強い薬ですから噴霧器が傷みます。使用後は丁寧にすすいでください。

花が散ってからダコニール、ジマンダイセン、トップジン、ベンレートなどの殺菌剤を1週間ごとに3〜4回かけてください。

2. 実に入るウジムシはシンクイガの幼虫です。5月下旬ころからスミチオン、エルサン、サリチオンなどいずれかの殺虫剤の千倍液を1週間ごとに3〜4回噴霧器でかけて予防します。卵からかえった幼虫が実の中に入ってからでは遅いので、予防の意味で散布します。

薬をかけるとき、殺虫剤と殺菌剤を混ぜて用いると、病気と害虫の予防が同時にできます。ただし石灰硫黄合剤は屈着剤のみ加え、外の薬剤は混ぜてはいけません。薬をとかすとき、のりの働きをする屈着剤を少量入れてください。

薬を散布するとき、薬の裏にかかるように下から上に向けてかけます。かけ残しがないように丁寧にかけましょう。

問

ラベンダーを庭で育てたいのですが、育て方や増やす方法を教えてください。

答

ラベンダーは日当たりがよく、風通しのよい、水はけのよい所を好みます。土壌は特に選びません。

暑さには強くないので北海道にむいた植物といえます。株を移植するには、春、4〜5月ころが適期です。園芸店やホームセンターにポット入りの苗がでていますからそれを求めてもいいでしょう。

ラベンダーの株は飛び飛びに植えるよりも、何株かをまとめて植える方が見栄えします。

新芽が伸びはじめたら油粕と骨粉を同量混ぜて、一株に一握り株の回りにばらまいてください。

大きくなった株の剪定は4月ころ行います。切り詰めると枝数が増え形がよくなります。小枝が密生していたらむれるので、込み合っている枝を切り取ってすかしてください。

増やすには挿し木ができます。挿し木は新芽がでる前に枝を3〜5節に切りとり、切り口をもう一度よく切れるカッターナイフなどでスパッと切り、水に3分くらい浸して水揚げしておきます。土にささる所の葉はしごいて取っておきます。

挿し床は、赤玉土かパーミキュライトのような肥料気のない清潔な用土を発泡スチロールの箱にでも入れて用います。細い棒で穴をあけて挿し穂をさしこみ軽くおさえます。挿し木床は乾かさないうち注意しましょう。根が出たら薄めのハイポネックスの液肥を4〜5日おきに4〜5回施し、根張りをよくしてから庭に植えます。

4月の園芸作業

庭の雪が融けると、待ちかねていたようにチューリップは芽を出していますし、フクジュソウも咲きだします。いよいよ戸外の作業もはじまります。いろいろな仕事がありますから計画的に作業を進めましょう。

1. 庭木、果樹、花木など

(1). 冬囲いの取り外しは、土が乾き次第こもの一部を開いて風を通し、曇りの日にとりはずします。

雪で折れたり裂けたりした枝は早めに手当てします。雪でつぶされた株は、支柱を立てて形を整えてやりましょう。

(2). 苗木の植えつけは、ゴールデンウィークのころ行います。根を乾かさないうこと、深植えにならないよう気をつけます。植えたあと支柱を立て、風で動かないようにします。

イチイ、マツ類、シクナゲの移植は6月が適期です。

(3). 果樹類の病気、害虫の予防のために、4月中旬～下旬の発芽直前に石灰硫黄合剤の10倍液を、幹、枝にたっぷりかけてください。

2. 野菜畑は土が乾き次第起こし、かたまりのまましばらく風に当てておき、その後肥料や石灰をまぜながら整地します。

エンドウは4月下旬から5月上旬には種蒔きができます。

3. 鉢のアザレヤ、ツツジ類、ウメなどは急いで植え替えしてください。

4. 洋らんのデンドロビューム、カトレヤの植え替えの必要な株は、新芽が伸びはじめたら行います。シンビジュームの新芽は親バルブに1本、鉢ぜんたいで3本になるように芽欠きしておきます。液肥を週1回、玉肥えを4～6個、

4月から7月まで月始めに置いて育てます。温かい所で、ガラス越しの日光によく当ててください。

5月の園芸作業

上旬から中旬にかけてエゾヤマザクラの開花期になり、春もたけなわで園芸家にとっては楽しい季節であり、作業も忙しくなります。

5月いっぱいくらいは遅霜のおそれがあります。夕方の気温をみて霜に当てないように注意してください。

1. エゾムラサキツツジがまず庭を彩りますが、剪定の必要な株は花後すぐ切り詰めると枝も増えて来年にぎやかに咲きます。

ツツジ類をはじめ、花後実をつけないように花がらを摘み取っておきましょう。

2. 庭木、果樹類の新芽が伸びるとアブラムシがつきます。特に果樹類は花が散りはじめたら、殺菌剤と殺虫剤をまぜて10日おきくらいにかけて病気、害虫を防ぎましょう。

3. 鉢花や観葉植物など温かくなると外に出しますが、いきなり日光にあてると日焼けしますから、1週間くらいかけて少しずつ当てる時間を伸ばして慣らしてください。クンシランは直射日光は厳禁です。半日陰に置いて下さい。

4. 草花のアスター、ジニア、キンセンカ、コスモスなどの1年草類、宿根カスミソウ、セキチク、オダマキノボリフジ、シャスターデージーなどの宿根草類の種まきを、下旬ころから畑に直接まきます。

5. ハナショウブ、アヤメ類のズイムシを防ぐために、カルホス、ディブテレックス、ビニフェートなどのいずれかを水にとかして、じょうろで株全体にかけてやります。

6. 菜園の種まきはジャガイモは上旬、時なしダイコン、コカブ、ホウレンソウ、タイナ、ニンジンなどは上・中旬、エダマメ、トウキビ、ササゲ類は中・下旬にできます。

7. コショウランの植え替えは花後、花茎を元から切り取って新しい水ごけで新しい素焼き鉢に入れ、温かい所におきます。

庭木類 春に予想される被害と防除

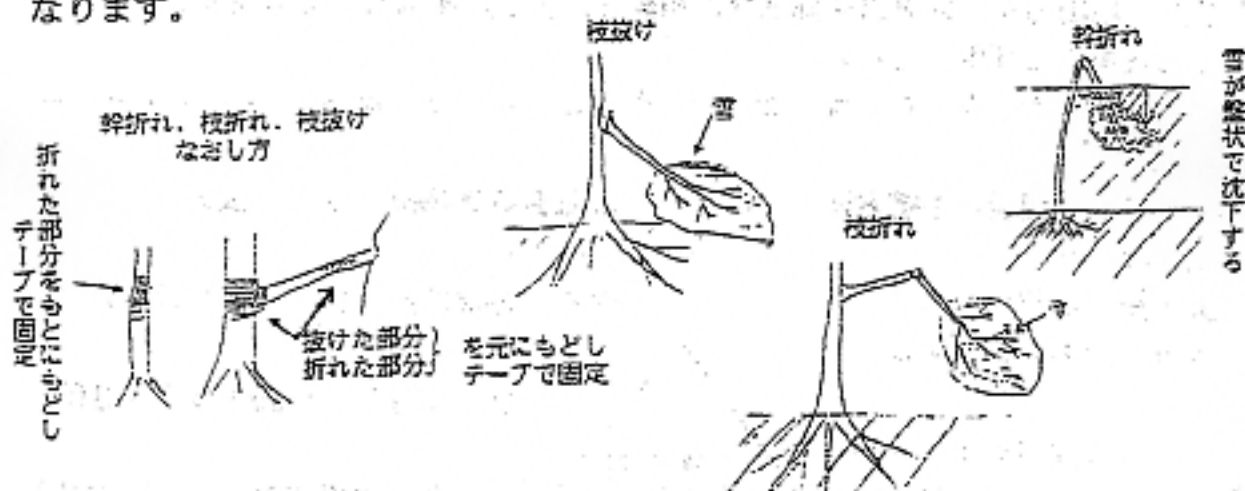
4月に入ると気温も日増しに上昇し、雪どけも進んで庭木類が姿をあらわします。雪による被害、病虫による被害、生育不良（根、土壌、生育環境など）による衰弱などさまざまな被害木が見えてきます。

このような被害木は、早急にしかも適切な処置をおこなうことによって、花、姿など十分に楽しむことができます。

被害別の処置方法は次の通りです。

●雪による被害と処置の仕方

今年の冬は降雪量がすくなく大きな庭木類の被害（枝折れ、枝抜けなど）はほとんど見受けられなかったようですが、樹高の低い灌木類（特にツツジ類）の幹折れ、枝折れ、枝抜け（下図）など雪の下での被害が結構見受けられますので、このような被害を受けた庭木類は、損傷箇所が乾かない早い時点で損傷箇所をもとにもどし、ビニールテープ、副木（そえぎ）などで固定し、障害部の回復をはかることが大切です。この場合早期に処置し、障害部が動かないように固定することが絶対条件になります。



●病虫の被害による処置方法

昨年中に病虫の被害を受け樹木自体が弱った状態で越冬したものや、病虫の越冬個体が見られる樹木類は、4月に入ってマイナス気温の日がなくなり新芽が動き出す前の時期に石灰硫黄合剤（10～30倍液）を使って樹木全体に散布して防除します。ただしこの薬剤を使用する場合は他の薬剤との混用をさけること、直射日光のあたる日中の散布はさけ、温度が12℃～13℃くらいまでの時期に使用するようになります。

ツツジ、シャクナゲ類に使用する場合は、薬剤が土中に浸透するような散布はさけ、散布薬剤が樹木にとどまっている程度の散布にとどめ、土中に石灰硫黄合剤の成分が浸透しないようにします。（根の周りにビニールを敷いて散布すると良い。）

樹勢の低下しているもの（衰弱木）は雪がとけて、新芽が動きはじめたら肥料（有機肥料、無機肥料）をあたえ、樹勢の回復をはかるようにします。